

# Letter from Samoa

サモア通信 9th

June.2018

豊橋南高校

青年海外協力隊

松川博明

Talofa!!サモア到着から10ヶ月が経過しました。派遣期間が20ヶ月の自分にとっては帰国までの折り返し地点となりました。今回はこの10ヶ月の活動の振り返りを綴りたいと思います。

## ○サモア到着から4ヶ月（7月末～11月末）

この期間は何もかもが新鮮でした。学校配属とともに、田舎の村でホームステイが始まりました。学校では低学年(中学レベル)に対して理科の授業を配属初日から行うこととなりました。英語が通じない生徒にサモア語と実演を交えての必死の授業でした。意思疎通もままならない状況での理科の授業は初体験でなかなか面白いものでした。

## ○年度替わりの2ヶ月間（11月末～1月末）

11月半ばで今年度の授業が終了しました。理由は国家試験(日本のセンター試験に相当)を2週間かけて行い、卒業式があり、1ヶ月半の長期休みに入ったからです。この期間はサモアのゆったりした生活を満喫するとともに次年度に向けての準備を着々と進めていました。しかし、自分ができることはなんなのか、何が求められているのかが見えてこずモヤモヤを抱えて過ごした時間でもありました。

## ○新年度開始から現在（2月～6月）

サモアの学校は新年度が始まってから教員の人事が発表されたり、生徒登録が行われたりします。そして生徒数、教員数などが確定した後、自分の役割も決まっていきました。上半期では以下のようなことを実施しました。

1. 高学年(高2,3相当)に対して物理、化学の授業  
現在本校には物理、化学を専門とする先生がいま

せん。サモア全体でもこれらの先生は少なく、生物専門の先生や数学の先生が教えている状況が多くあります。そこでボランティアの自分が、理科の指導をしています。帰国後のことも考えて、できるだけ現地の先生と共に授業を行うように心掛けています。また低学年の理科の授業にも実験の補佐で入ることも度々あります。

## 2. 教材作成

化学、物理の教科書がサモア独自のものは存在しません。現地の先生も海外の教科書等を参考にしている感じです。そこで、自分の授業内容をサモアのカリキュラムに沿った形で全てデータ化、書籍化を行っています。また実験に関してもマテリアルやプリント等を形として残るように作成しています。

## 3. その他諸活動

時間があるときに日本の文化や歌を紹介したり、基礎計算のドリルを各クラスで実施をしたりもしています。また長期休暇には、大学に出向いて、教授や学生に対してセミナーを実施しました。

## ○何が正しいか

赴任して10ヶ月が経ち、少しずつ活動が充実している感じはありますが、本当にこれが正しいのか、いつも自分と葛藤しています。しかしどんな状況であったとしても、目の前の生徒や先生達のために自分ができることを追求して、サモアンなペースで肩肘張らずに楽しみながら活動をしていきたいと思います。それでは Fa soifua!!

